



9月7日、図書館からちゅピCOMの『まちかどスタジオ』の生中継。マロンや小瀬川さんをはじめスタッフも出演。

て、小学生や親子づれを想定したものにしたと司書の島田由紀子さん。
キャラクターを設定し、図書館の利用方法や日頃は見られない舞台裏などをちよっとしたコント仕立てにして、親しみやすいよう工夫したとのこと。職員自ら演技、カメラを回し、編集作業を一丸となってこなしています。
キャラクターのとしょかん犬マロンは人気者。カウンターに置かれたパペットのマロンを見て、子どもたちが喜んでくれる姿に職員もニコニコ。子どもたちばかりでなく、こども司書の小瀬川さんも大人にも好評。漫画やアニメで人気の江戸川コナンに憧れる小学5年生の設定で

す。小瀬川さんとマロンとのやり取りの裏で、黒の組織ならぬ「謎の組織」も何げに図書館を陰で支えている存在となっています。
ぶらり、散歩気分です。9月半ばの時点で、10本の動画を配信。ここまでは、当初の計画で進んできました。しかし、動画のチャンネル登録数も伸び悩んでいるという壁にぶつかってしまいました。さらには図書館本来の業務をこなしながらの動画制作も苦労が多いのも確か。
図書館利用者は、小さな子を持つお母さんや、年配の方が多いのが現状。これを中高生や若い世代の利用に広げていくためにも、動画が大きな原動力になるのではないかと思案の段階です。
図書館の動画配信というのは、県内でも類を見ないと吉村課長は言います。この取り組みが一つのきっかけとなり、「ぶらり」と散歩気分です。図書館が利用できるようなればと考えているようです。



秘密?の部屋をのぞく
約14万冊の蔵書の図書館ですが、通常利用できる開架式の棚には、そのうち約6万4千冊が収められています。それ以外の書籍類は、地下の書庫や2階の郷土資料室にあります。
地下の集密書架という棚は、17本のスチール製のスライド式のもの。分類された図書が、びっしりと収納されています。地下の別室にも、西

村京太郎、赤川次郎など作家の小説がずらりと並んで圧巻。もちろん、貸し出しや閲覧の希望があれば、ここから皆さんの手元に届きます。
郷土資料室には、その名のとおり郷土の貴重な資料、市史や町史、社史などのほか、官公庁などの刊行物、市内の学校で発行した作文集なども保存しています。郷土資料室の利用は、カウンターに申し出てください。



YouTube大竹市図書館チャンネルはQRコードを読み込んでください。



(上) 地下書庫。この部屋以外にもどっさり本を収納。(中) 郷土資料室には地元の刊行物などがいっぱい。(下) 市内小学生の作文が収められた文集『竹の子』。

動画配信で魅力発信

10月27日(木)から11月9日(水)は「読書週間」です。約14万冊の蔵書を抱える市立図書館は、年間およそ3万人が利用する市の知の拠点としての役割を担っている施設と言えます。その図書館で4月から始まった新たな取り組み。それが動画配信サイトYouTubeを「ねる」で使った「図書館チャンネル」での情報発信です。
「コロナ禍により利用者数が減ってきた状況の中、昨年度のコロナ対策の交付金事業で購入したデジタル機器を活用し、図書館の魅力発信につなげようと、職員一同が手づくりで制作しています」。そう語るのは図書館長も兼ねている吉村隆宏生涯学習課長。

マロンと小瀬川さん登場

しかし、何と言っても職員にとって動画制作は初めての経験。話し合いを重ね、手探りで準備を進めていき、今年の4月からの配信にこぎ着けました。

「コロナ禍でなかなか外出できない子どもたちに向けて発信しよう」との思いを持つ



としょかん犬マロンのモデルになったリアル「マロン」

ぶらり、ライブラリー。

としょかんさんぽ

【取材 企画財政課】

としょかん犬マロン
大竹市生まれクロシバのオス3歳。本をかむのが好き。
小瀬川さん
名探偵コナンに憧れる小学5年生。こども司書として図書館のお手伝いをしています。推理小説が好き。
謎の組織
小瀬川さんたちとは直接関わらず、陰で本の整理をしたりして支えている黒ずくめの3人組。「カワウソ」「雀」「雁」お酒を連想させる名前。

本が表に出るまで

- 毎週金曜日、図書館流通センターから段ボール1~4箱分くらい、約10~150冊が届きます。
 - 本の保護のためフィルムコートされたものに、蔵書印を押し、新刊シールを貼っていきます。新刊は納品月が見分けられるように色違いのシールを貼ります。
 - 全ての本のデータを市立図書館のシステムに流し込んで貸し出しできるようにし、毎週木曜日に新刊コーナーに並べます。
 - そのほか個人からの寄贈本、市役所や官公庁などからの資料やパンフレットはゼロからフィルムコーティング、ラベル貼り、データ登録を行っています。
- ※毎日の貸し出しや返却処理、本棚を分類に従い正しく並べ直す作業、大竹に関する新聞記事のスクラップ、定期的にアゼリアおおたけや公民館備え付け図書の入替え、児童クラブなどへの貸し出し、ホームページの更新、『図書館だより』『ティーンズ便り』の作成などなど、ほかにも書ききれないくらい見えないところで図書館の仕事はたくさんあります。

和綴じノートづくり体験教室

おおたけ手すき和紙保存会の方を講師に迎え、大竹手すき和紙を使った4つ目綴じの和紙ノートを作ります。御朱印帳や自由帳などにしてあなただけの一冊を作ってみませんか。

とき10月22日(土)10時▶ところ図書館2階ギャラリー1▶対象成人▶定員10人程度(申込順)▶講師おおたけ手すき和紙保存会▶材料費1000円(当日集めます)▶持参品はさみ

おはなしきかせて ~大人のためのストーリーテリングのおはなし会~

ストーリーテリングとは、語り手がおはなしを語って聞かせることです。引き込まれるような物語の世界をお楽しみください。

とき10月27日(木)11時▶ところ図書館2階ギャラリー1▶対象成人▶定員15人程度(申込順)空きがあれば当日参加も▶語りおはなしボランティア「にじいろのたね」の皆さん

申し込み「和綴じノートづくり体験教室」「大人のためのストーリーテリングのおはなし会」とともに、10月4日(火)10時から電話(☎52-5338)または直接図書館カウンターへ。



ページの外れに接合剤を塗り、専用の接着剤で修復。本は傷みやすくなります。

守って欲しい 図書館利用の困ったちゃん

ゼロハンテープで直さないで
図書館の本は、みんなのもの。でも、たまに傷んで返ってくる場合があります。絵本などは小さな子が扱うので、どうしても破れたりして傷み

やすくなってしまうようです。ほかには、飲食をしながら読んでいて、こぼしてしまったりケースも。水分を含んでフニャフニャになると、これはもう元に戻すのは難しくなります。ペットの犬やねこが、噛みついていたり原因もいろいろ。もちろん、経年劣化で仕

方ない場合もあります。そんなときは、返却時に申し出てください。決して自己流で修復はしないで欲しいのです。破れたページをゼロハンテープで補修すると、日が経つにつれ劣化してしまい、かえって本を傷めてしまうこととなります。図書館職員が、本の修復用の特殊な接着剤などで直していきます。分解して修復する場合、『手術』と言ったりしているようです。

弁償は現物でお願いします。あまりにひどい損傷や紛失してしまった場合は、弁償していただくこともあります。

弁償といっても現金ではなく、同じものを購入していただきます。絶版になっていたり、値上がりして高価になったりして入手が困難な場合は、職員に相談してください。本は元の位置に



「税金で買った本」
原作：ずいの・漫画：系山岡(講談社)
10年前に借りた本をなくしたことをきっかけに図書館でアルバイトすることになったヤンキーの高校生石平くん。図書館事情を分かりやすく描いたお仕事漫画。



親子で絵本を 楽しんで

『おはなし会』という場

『おはなし会』の日程は、28ページ『としゃかんだより』をご覧ください。



動物の絵本が好きなおはなし会。今日はゾウさんの絵本を借りました。

毎月、第2金曜日に催されている2つの『おはなし会』。赤ちゃん向き、1歳以上を対象とした、親子で参加できるものです。

9月9日、『おひざにだっこのおはなし会』には、生後間もない赤ちゃんを抱っこしたお母さんたちが集まってきました。

おはなしボランティア「にじいろのたね」の藤井真由美さん(油見)が、優しい口調でお母さんたちに語りかけたり、歌と一緒に歌ったりして、気持ちをほぐしていくと、次第に赤ちゃんも笑顔に。

今回生後2カ月のこのお母さん(油見)と初めて参加したお母さんは「本を読むだけかと思ったら、一緒に歌ったりしてリラックスできて良かった。スキップできて良かった」と満足そうでした。

藤井さんは「本は季節に

合ったものや、参加者の顔ぶれを見て選んでいます。赤ちゃんも2人で家にずっといると、お母さんも煮詰まってしまうので、ここが気分転換の場になるかもしれません。皆さんと接すると優しい気持ちになれるようで、いい顔になって帰ってくれます。そんな癒やしの場にもなっているようです。

大竹小学校や乳幼児健診の場でも読み聞かせの活動を続けている『にじいろのたね』の皆さん。「幼いころから参加してくれていた子どもたちが成長し、小学校で再会するとハイタッチして歓迎してくれるのがうれしい」と藤井さんは頬を緩めます。

「おはなし会が、親子で絵本に接する機会になってくれれば」と藤井さんは話してくれました。

図書館の仕事が分かる本

「司書のお仕事 お探しの本は何ですか?」
大橋崇行：著(勉誠出版)

図書館に新人司書として採用された主人公。そこで待っていたお仕事とは? 蔵書目録の作成、本の受け入れ作業、イベント企画など、「司書のお仕事」の内容をストーリー形式で分かりやすく紹介。続編もあります。



誰が何を读んだり借りたりしたか、図書館職員から漏れることはありません。

本町から来た月に2~3回利用しているという親子。今日は何を借りたか聞いてみました。

お母さんは、NHKの大河ドラマ『鎌倉殿の13人』が面白いので、鎌倉のことを知りたいと思って旅行ガイド本と鎌倉時代を漫画で知ることができる本を借り、娘さんは、投資のことをやさしく解説してある本を借りたようです。

何を借りたかな? 顔出しNGインタビュー